

国労本部電送No.164	発信日 2025年3月13日	発信 業務部	責任者	受領者

<貨物会社 2025 春闘回答速報>

## 会社 「ベア 2000 円」を回答

## 組合 「社員の生活を顧みない低額回答に断固抗議する！」

本日（19 時 00 分）、貨物会社は「2025 年 4 月 1 日以降の賃金引き上げに関する申し入れ」（国労闘申第 9 号）に対し回答を行った。

ベアについては、2025 年 7 月 1 日現在（昇給前）の基本給に 2,000 円を加える。（初任給、年齢保障給、基準額を含む昇給表も引き上げ）との回答を行った。

2024 年度は「JR 貨物グループ長期ビジョン 2030」の方針のもと新たに策定した「JR 貨物グループ中期経営計画 2026」の初年度として取組みを進めてきた。

環境特性に優れ労働生産性の高い貨物鉄道輸送は「物流の 2024 年問題」や環境問題といった社会課題の解決に貢献できる輸送モードとして非常に大きな役割を期待されている。

2025 年度の新賃金については、失われた信頼の回復と「JR 貨物グループ中期経営計画 2026」に掲げた施策を社員一丸となって取り組んでいくことを期待し、以下の通り回答する。ーとして、「定期昇給を実施すると共に、2025 年 7 月 1 日現在（昇給前）の基本給に「2,000 円」のベースアップを実施する」との回答を行った。

これに対し本部は、

- ①「官製春闘」と言われる中、政府・財界からの要請を含め、社会的にも「大幅賃上げの定着」が求められる中で、国労要求から大きく乖離した今回の「低額ベア回答」は断じて認められない。
- ②今回の回答は物価高騰が続き実質賃金が低下している下で、何としてでも生活改善を願う社員と家族の思いを踏みにじるもので、経営課題を理由に社員に責任転嫁したものでしかない。
- ③持続可能な社会の構築に貨物鉄道輸送はなくてはならない存在であり、環境問題だけに留まらず人手不足をはじめとした 2024 年度以降想定されている課題に対して貨物会社は重大な責任と、役割を担っていかなくてはならない。そのために設備投資に膨大な資金投入を行うのであれば、会社経営の中心である社員に対しても還元を行うことは当然であり、回答は理解に苦しむものでしかない。
- ④安全輸送や会社の信頼回復に向けて劣悪な職場環境・労働条件の下、昼夜を問わず懸命に働く社員に正当に還元しない姿勢は、日々安全輸送を最前線で支える社員感情を逆撫でするものであり、止まらない若年退職など今後の人材を確保する上でも経営責任を果たしているとは到底思えない。
- ⑤これまでも幾度となく指摘する、JR 発足から続く構造矛盾を放置し続けてきたことが今日の貨物会社の健全経営を阻害する根本原因であり、放置し続ける会社姿勢を認める訳にはいかない。ーと強く抗議した。

これに対して会社は、「貴側からの抗議については受け止めるが、本日の回答は最終回答である」と重ねて表明した。

最後に本部は、「国を挙げての賃金引き上げの機運が高まる中で、大幅賃上げは社会的責務であり、実質賃金だけ低下し続け、社員に更なる犠牲を転嫁して乗り切ろうとする経営姿勢は断じて認められない」と改めて抗議し、本日の回答の取り扱いについては「持ち帰り」とし、交渉を終了した。

本日の貨物会社の低額ベア回答に対して、別途、発せられる闘争指示に基づき、抗議と要請行動の展開を要請する。

なお、オープンは 19 時 45 分であり、取り扱いは注意すること。

以 上